



# GAME-MASTER MISSION\_1

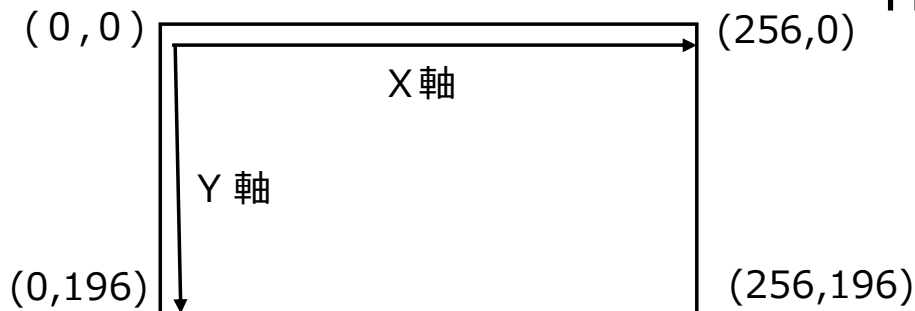
アニメでゲーム作りを学ぼう(1/3)

## ホワイトボード

### ゲーム開発マスター MISSION 1

### ピクセルマン the アニメを作る(1/3)

#### ●ゲーム制作における座標



#### ●ゲームのプログラムの基本

import pyxel	← Pyxel[ピクセル]ゲームを読み込む
class Anime :	← 設計図(クラス)「Anime」の定義が始まる
def __init__(self) :	
~	← ここに初期処理を書く
def update(self) :	
~	← ここにキャラの座標の更新(移動)を書く
def draw(self) :	
~	← ここにキャラ(ピクセルマン)の描画を書く
Anime()	← 設計図「Anime」を動かす

## ■ 時間割

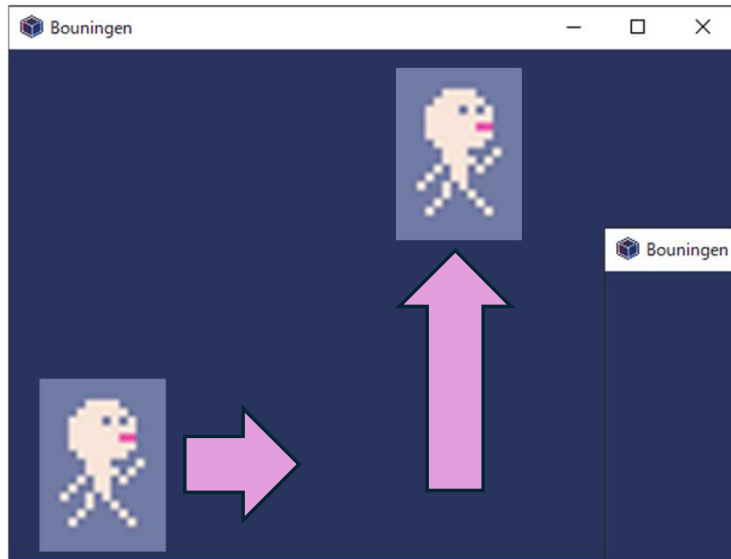
### MISSION\_1

寿司打	5分
キャラ(ピクセルマン)作り	20分
勝ってに右に走る(基本1)	60分
勝ってに右に走る(基本2)	45分
キーを押すとジャンプする	45分
寿司打	5分

合計	180分
----	------

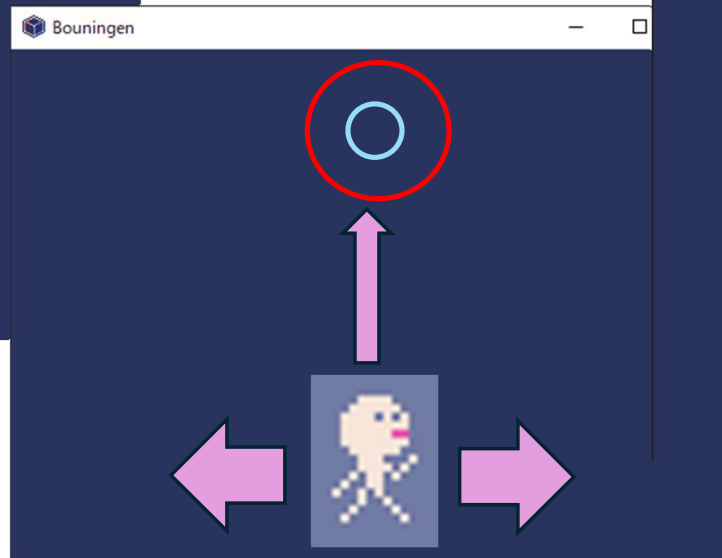
# アニメでゲーム作りを学ぶ

今回(MISSION\_1)



ピ°ケルマン、走る、ジャンプ

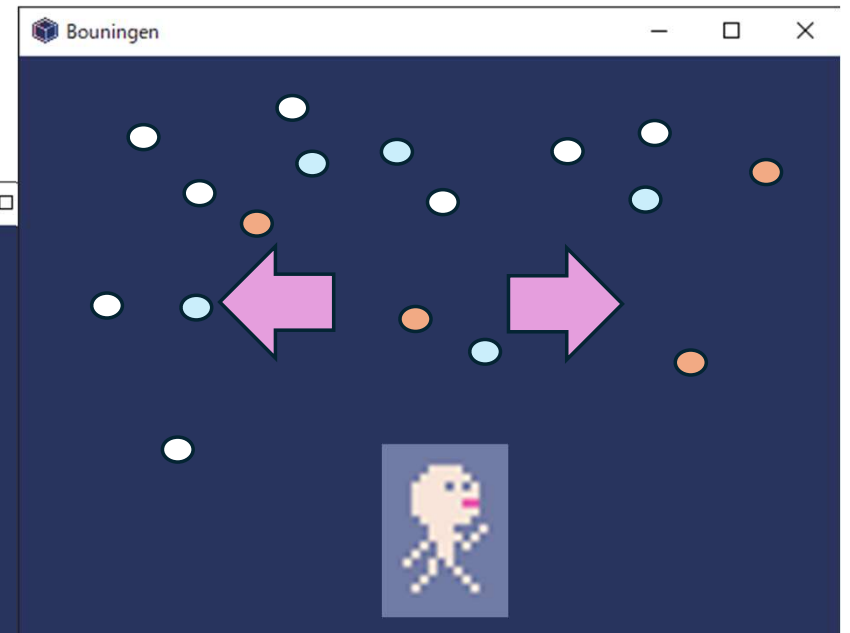
次回(MISSION\_2)



ピ°ケルマン、左右に走る、花火を上げる

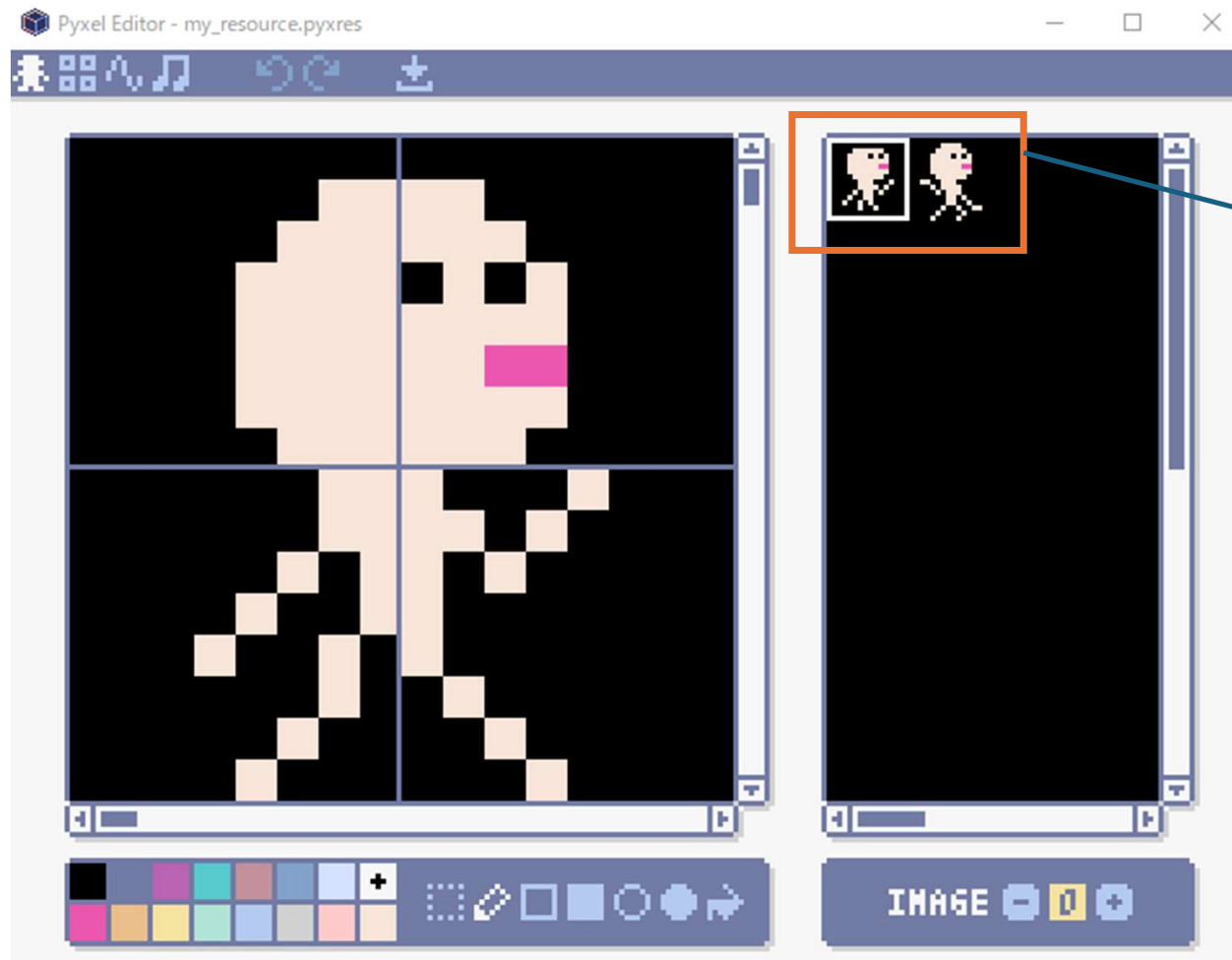
次々回(MISSION\_3) (完成)

ピ°ケルマン、走って、ジャンプ、花火を上げる、  
背景を動かして完成させよう！



# pyxel editでキャラ(ピクセルマン)を作ろう

・この画面で背景の画像や、効果音、BGMも作れる。



走っているような  
ピクセルマンを2種類  
作る

# ゲームプログラムの基本1

プログラムを打ち込んで、動かしてみよう！

- ・クラスという機能を使って、プログラムの設計図を作って、それを必要な時に実体化させる。

<code>import pygame</code>	←Pyxelというゲームエンジンを読み込む
<code>class Anime :</code>	←設計図「Anime」の定義が始まる
<code>def __init__(self) :</code>	←ここに初期処理を書く (最初に1回だけ実行)
<code>~</code>	
<code>def update(self) :</code>	←ここにキャラの座標の更新(移動)を書く (1秒間に30回更新)
<code>~</code>	
<code>def draw(self) :</code>	←ここにキャラ(ピクセルマン)の描画を書く (1秒間に30回描画)
<code>~</code>	
<code>Anime()</code>	←設計図「Anime」を動かす(クラスを実体化させる)

プログラムを修正して、  
同じ動きになることを確  
認しよう！

- `import pyxel` ← Pyxelモジュールを読み込む

```
class Anime :
    def __init__(self) :
        ~
        Pixelman(self)
    def update(self) :
        ~
    def draw(self) :
        ~
Anime()
```

←設計図「Anime」の定義がはじまる

←ここに初期処理を書く (最初に1回だけ実行)

←ゲームのはじめからピクセルマンを動かす(設計図「Pixelman」を実体化させる)

←ここでキャラの座標の更新(移動)を呼び出す(1秒間に30回)

←ここにキャラ(ピクセルマン)の描画を呼び出す(1秒間に30回)

←設計図「Anime」を動かす(実体化させる)

# ゲームプログラムの基本2(2/2)

設計図「Anime」の中のプログラムも修正するよ！

- 設計図「Pixelman」の中身は次のとおり、設計図「Anime」と似てるよ。

class Pixelman :      ←設計図「Bouningen」の定義を新たに作る

def \_\_init\_\_(self) :

～

←ここに初期処理を書く

(最初に1回だけ実行)

def update(self) :

～

←ここにキャラの座標の更新(移動)を書く

設計図「Anime」の中から「`self.pixelman.update()`」  
で呼び出せる

def draw(self) :

～

←ここにキャラ(棒人間)の描画を書く

設計図「Anime」の中から「`self.pixelman.draw()`」  
で呼び出せる



# 走る(勝手に右に)

説明を良く聞いて、右に走る仕組みを理解しよう！

- ・走るために必要なのは、現在のx座標にスピードvxを足すことと、画面の右端からはみ出たら、画面の左端に戻すこと。
- ・そして、5ピクセル移動するごとに、キャラのパターンを切り替え、動きを出す。  
(-1を掛けることで、ptn は  $1 \rightarrow -1 \rightarrow 1 \rightarrow -1 \rightarrow \dots$  に切り替わる)

```
class Pixelman :
```

～

```
def update(self) :
```

```
    self.bn_x += self.bn_vx
```

←現在のx座標にスピードvxを足す

```
    if self.bn_x > Anime.SCREEN_WIDTH :
```

←画面の右端からはみ出たら

```
        self.bn_x = 0
```

```
    if self.bn_x % 5 == 0 :
```

```
        self.bn_ptn *= -1
```

←5ピクセル移動するごとに、  
キャラのパターンを切り替える

# 飛ぶ(1/2)

プログラムを修正して、ジャンプする仕組みを作って行こう！

- ・スペースキーが押されたら、キャラのパターン(状態)であるptnを0 にし、ジャンプのモードに切り替える。

```
class Pixelman :
```

～

```
def update(self) :
```

～

```
if pyxel.btnp(pyxel.KEY_SPACE) == True : ←スペースキーが押されたら  
    self.bn_ptn = 0
```

```
pyxel.btnp(pyxel.KEY_SPACE)  
スペースキーが押されたら True
```

```
pyxel.btn(pyxel.KEY_SPACE)  
スペースキーがおされている間 True
```

```
pyxel.btnr(pyxel.KEY_SPACE)  
スペースキーがはなされたら True
```

# 飛ぶ(2/2)

ジャンプは飛んだあと、だんだんスピードがおそくなって、0 になったら、地面に落ち始めるぞ！

- 普段は勝手に右に移動するが、キャラのパターン(状態)であるptnが 0 の場合は、ジャンプ動作を行う。

```
class Pixelman :
    FS = -30          ←飛びはじめのスピード（上に移動するからマイナス）
    GA = 3            ←だんだんスピードが遅くなる（早くなる）量
    ~
    def update(self) :
        if self.bn_ptn == 0 :
            self.bn_y += self.bn_vy          ←y座標にスピードを足す
            self.bn_vy += Pixelman.GA        ←スピードvyには3を足す
            if self.bn_y > Anime.SCREEN_HIGHT : ←地面に戻ったら、ジャンプ
                self.bn_y = Anime.SCREEN_HIGHT - 16 の動作を止める
                self.bn_ptn = 1
                self.bn_vy = Pixelman.FS
```